

所在地：長野県千曲市 選定年月日：平成22年2月22日 面積：64.3ha 選定基準：一(一)

(1) 概要

古くから月見の名所や棄老伝説で著名な姨捨山北麓の標高460～550mの傾斜地には、千曲川から善光寺平に至る広大な盆地に臨んで約1,500枚の水田から成る棚田が展開しています。

近世初頭に畑作と稲作が混在する農耕が定着し始め、利水が進展することにより稲作が主体となり、近世末～近代に日本を代表する棚田の文化的景観を形成しました。

姨捨の棚田の基本構造は、土石流が形成した斜面上に展開する棚田を中心として、水源である更級川(さらしながわ)上流の大池と斜面下方の集落とが有機的に結びついている点にあります。近世初頭における営農は斜面上の小湧水群を利用して出発しましたが、大池から更級川を経て各用水へと給水する灌漑手法が導入され、土坡の畦畔を超えて導水する「田越(たこし)」と呼ぶ灌水方法や、水田の下層に敷設された「ガニセ」と呼ぶ暗渠による排水方法が採用されることにより、棚田は斜面全体へと広がっていきました。

姨捨の棚田は、水源となる大池から更級川へと繋がる水系を軸として、用水や田越の給水手法が網の目のように張り巡らされ、近世から近現代に至るまで継続的に営まれてきた農業の土地利用の在り方を示す独特の文化的景観であり、我が国民の生活又は生業を理解する上で欠くことのできないものです。



尾根筋に展開する棚田



四十八枚田と田毎観音

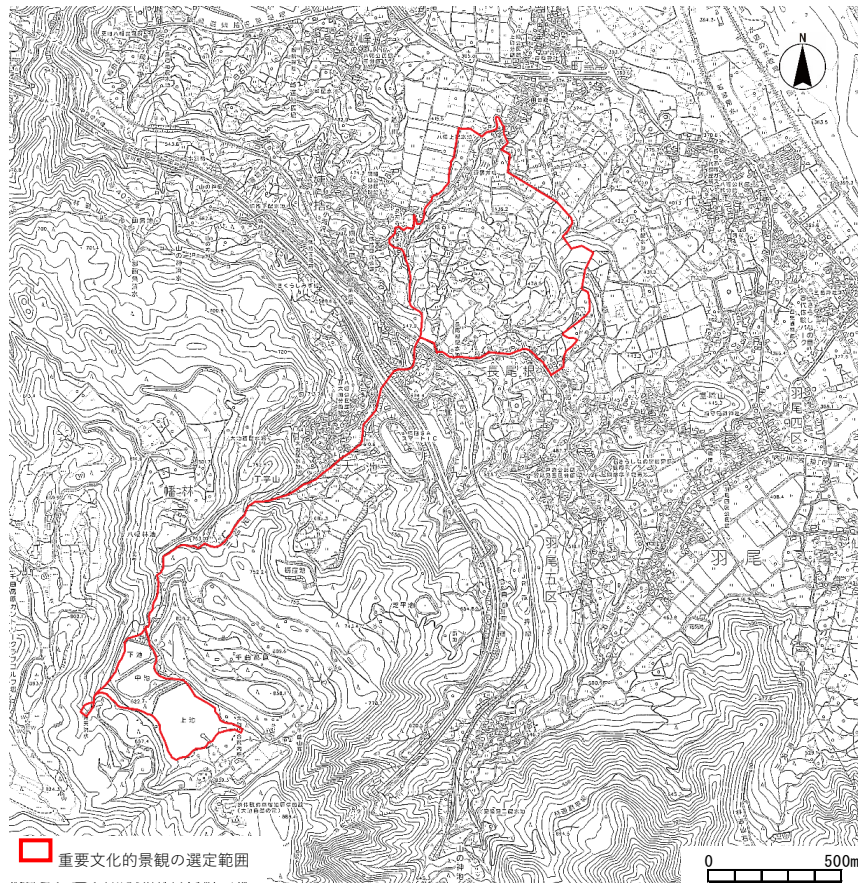


水源地の一つ、大池



収穫期の棚田

（２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：1,500枚の棚田、水源池、水路、農道
- ・ 国指定等文化財：姨捨（田毎の月）（名勝）

（３）選定による効果

姨捨の棚田は日本の棚田百選にも選ばれており、重要文化的景観選定前から棚田での耕作を維持するための取り組みが行われていました。選定の取り組みなどが実績となり、つなぐ棚田遺産、日本遺産「月の都 千曲」にも認定され、棚田の保存と活用が進められています。

耕作放棄された棚田の再生を図り、棚田オーナー制を取り入れ、都市住民との交流を深める活動が行われています。また、棚田の所有者（耕作者）に代わって耕作を行う保全団体が複数あり、耕作者・オーナー・保全団体による耕作によって美しい景観が保たれています。小中学校の農業体験の場としてなっているほか、収穫の終わった棚田のライトアップといった新たな取り組みも行われています。



小中学校の農業体験



棚田のライトアップ

（４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 姨捨棚田の文化的景観保存計画書（平成20年3月、千曲市）
- ・ 姨捨の棚田整備計画（令和4年3月、千曲市）
- ・ ホームページ

https://www.city.chikuma.lg.jp/soshiki/rekishibunkazaicenter/rekishi_bunkazai/2/2375.html

(5) 活用事例

事例20-01 ①

棚田保全の取り組みの広がり ～棚田オーナー制、棚田保全推進会議、日本遺産の活用～

●行政と住民等の協働による取り組み

棚田の復田整備を行い、都市住民との交流を深めるため、市は棚田オーナー制を取り入れて耕作の継続を図っています。棚田オーナーの支援団体として千曲市姨捨棚田名月会が活動しています。

また、所有者（耕作者）が耕作できなくなった棚田を耕作する保全団体も複数あり、活動しています。団体と市の情報共有を図るため、千曲市棚田保全推進会議が組織されています。一連の取り組みは、棚田学会賞を受賞しました。

日本遺産認定を受けて、日本遺産センターを整備し、重要文化的景観を含めた地域全体の観光案内やイベントを行い、回遊・滞在を促しています。

- ✓ 棚田学会賞
- ✓ 長野県知事表彰

団体等情報：姨捨の棚田保全団体

- 千曲市姨捨棚田名月会
<https://www.city.chikuma.lg.jp/soshiki/nihonisan-suishinshitsu/kanko/1/2185.html>
- 田毎の月棚田保存同好会
- 姨捨棚田会
- 科野農業塾
- 名勝姨捨棚田倶楽部
- 四十八枚田保存会



棚田オーナー説明会



棚田の稲刈り



棚田保全推進会議の活動報告



イタリア料理も楽しめる、千曲市日本遺産センター

① 魅力の共有
地域内での

② 活性化の共有
目標の共有

③ 広域外への
地域情報

④ 魅力を引き出す
開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり・

（５）活用事例

事例20-01 ②

地域のひとと環境を活かした自然保育

●住民や団体等による取り組み

姨捨の棚田の豊かな自然環境や地域資源を積極的に取り入れた、特色ある自然保育が行われています。

「さらしなの里自然保育 ぼっこ」は、棚田を園庭に見立て、大人も子どもも四季の移ろいを感じながら人と関わり生きる喜びを育てる保育を実施しています。棚田に田んぼを持ち、米作りをしながらカエルやドジョウとり、お花摘みやごっこあそびをして、たくさんの生き物や植物とふれあっています。時には、棚田の水源池である大池までお散歩に出かけ、1年を通してほとんどを戸外で過ごし、豊かな感性と丈夫な体を育てています。

棚田を耕作の場だけでなく、人を育てる場として活用することで、棚田の新たな魅力を引き出しています。

団体等情報：

特定非営利活動法人 さらしなの里自然保育 ぼっこ

<https://sarashina-bokko.com>

写真提供 さらしなの里自然保育 ぼっこ



がんばった田植え



棚田たんけん



棚田のおさんぽ



保護者も参加しての稲刈り



耕作者の協力を得て、古い農具を使う体験も

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を
引き出す

⑤ 資源の
確保と運用

⑥ 人づくり